

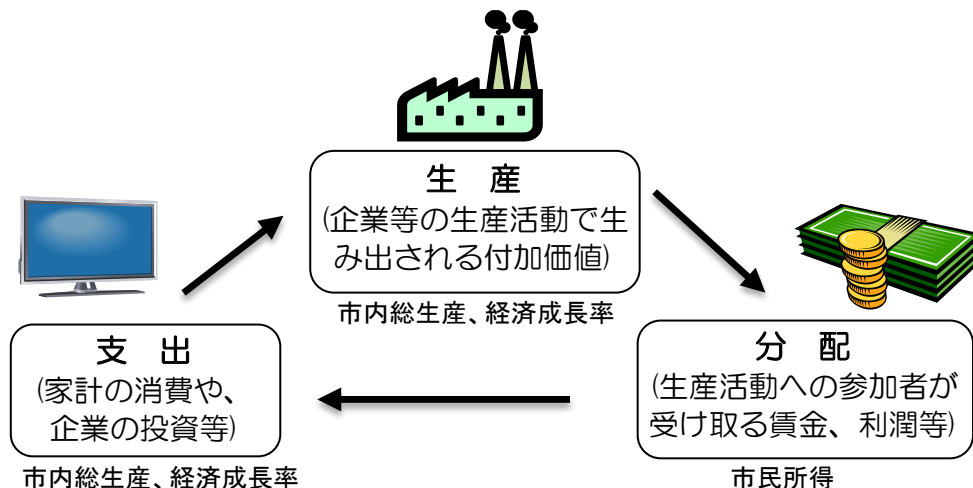
# 「市民経済計算」とは

## ○ 市民経済計算の概念

私たちは経済活動により様々な財（モノ）・サービスを生産し、新たな価値（付加価値）を生み出しています。

生産活動の結果生み出された付加価値は（生産面）、生産活動に携わった人や企業などに賃金や利潤等として分配され（分配面）、分配された所得等は家計での消費や企業の設備投資等として支出されます（支出面）。

経済活動はこのような循環を繰り返しており、市民経済計算は、一年間の経済活動で新たに生み出された付加価値を、この三面からのアプローチにより推計するものです。推計の結果は、経済規模を表す「市内総生産」やその拡大・縮小を表す「経済成長率」、市の経済全体の所得水準を表す「市民所得」等として公表しています。



## ○ 市民経済計算の計算方法

他都市等との比較を可能とするため、内閣府が示す「県民経済計算標準方式」により計算しています。全都道府県と17の政令指定都市(※)も同様にして経済計算の推計・公表をしています。

推計に用いる資料は、主に、国勢調査、商業統計調査、工業統計調査、住宅・土地統計調査や経済センサス等の各種統計調査結果、国民経済計算、本市の各種統計書や決算書、関係機関の財務諸表などです。

※ 札幌・仙台・さいたま・千葉・横浜・川崎・新潟・浜松・名古屋・京都・大阪・堺・神戸・岡山・広島・北九州・福岡

## ○ 生産・分配・支出の循環について

生産活動で発生する付加価値（市内総生産）は、商品の出荷額や売上高・販売額等の取引高ベースの金額換算を「産出額」として、産出額から原材料や光熱水費などの「中間投入」を差し引いた残りとして把握しています（生産面）。

$$\text{市内総生産（付加価値）} = \text{産出額} - \text{中間投入額}$$

生産面で把握された付加価値は、生産活動における原材料等を支払った残りの部分になるため、生産活動に携わった人や企業へ賃金や利潤等として分配することができます（分配面）。家計や企業は、この分配された所得を用いて新たな財（モノ）・サービスの購入や設備投資等を行っています（支出面）。

## ○ 生産・分配・支出の循環の簡単な事例

